

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年2月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690200185
法人名	社会福祉法人 白寿会
事業所名	グループホーム 和
所在地	鹿児島県薩摩川内市中福良町2911番地1 (電話) 0996-22-0753
自己評価作成日	令和2年1月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者自らできることが、いっぱいあると私たち職員は知っています。職員主導にならないように、ご利用者が考え決定していただけるように配慮しています。和の主役はご利用者であり「自分の家で暮らしていた頃のように思い通りの生活ができる」ことを理想として、そのためのほんの少しのお手伝いを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は同法人の特別養護老人ホームなどの高齢者福祉施設が敷地内にあり、防災訓練など合同で実施したり、緊急時の対応が整っている。
- ・事業所内はなごやかで明るい雰囲気である。職員は一人ひとりの利用者に親身になって対応し、笑顔を引き出す関わりを心がけている。
- ・職員は家族の面会時にはよく話しかけて真剣に家族の思いに傾聴する姿勢で関わっている。
- ・職員はチームワークが良く尊重し合い、利用者の認知度低下を防止する介護支援に取り組んでいる。
- ・管理者は職員と常に話し合う時間を設けて、個々の心身の体調にも気配りし、働きやすい環境づくりを心がけている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は事業所の原点であり、自分達の支援に迷いや困難が生じた時のよりどころとしています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念で、玄関やフロアに掲示し、職員全員共通認識のもとケアを行っている。それぞれの会議で振り返りを行い支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	残念ながら、日常的交流といえるまでには至っていません。課題の1つとして十分認識しております。	自治会に加入し、地域行事の秋祭りやクリーン作戦に参加している。高齢者クラブからタオルを寄贈して貰ったり、法人全体でグランドゴルフを主催し地域から参加者があり交流している。散歩時の挨拶、花の差し入れなどもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方へ、認知症の理解を深めていただけるよう講演等の実績があります。このような機会をもっと増やしたいと考えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の報告に終始する傾向にありますが、委員の方から具体的なアドバイスもいただいております。今後につなげたいと考えています。	定期的に会議を開催し、事業所活動内容・利用者の現状・インシデントや事故報告などを報告し話し合いをしている。電話対応や訪問者対応について話し合いサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>日頃から連携を密にするのは難しい部分がありますが、部署ごとに相談できる人がおり、安心して事業ができています。</p>	<p>市担当者とは直接訪問し、法的な事・知りたい事・困った事などを相談し、アドバイスを貰っている。日頃から連携し協力関係を築いている。市主催の研修会にもテーマにより管理者または職員も積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>事業所として身体拘束はおこなわないことを宣言しています。身体拘束等適正化のための7つの指針を定め、職員へ周知する機会を定期的に作っています。徘徊対策を理由に施錠をおこなうことはありません。</p>	<p>法人の研修会への参加や3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会中心にスピーチロックも含め勉強会をしている。ウッドデッキに自由に出入りしたり日中の玄関施錠はせず、見守り支援を行い、外出希望の場合は職員も一緒に散歩している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会/研修の機会を作っており、あつてはならないこと、してはいけないこととして十分認識しています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>福祉が手を差し伸べる必要のある人が身元引受人がないからと利用できないケースが生じていると聞き、事業所として危機感を覚える。成年後見制度で全てをフォローできないが、何かできることはないかと後見制度の実習を受けたことがある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約および改定等は、事例や想定されることを踏まえて分かりやすい説明に努め、不安や疑問を解消していただけるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からいただいた意見は職員間で共有し、ミーティング等をおこない反映するように心がけています。	利用者からはお茶の時間や雑談の中で意見を聞いている。家族からは面会時や運営推進会議で意見を聞いている。3ヶ月毎に「白寿園だより」や電話で情報提供し、ラインで希望を聞くこともあり、意見を言える機会を設け運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	利用者の代弁者でもある職員から意見や提案が積極的に出ないようでは運営上心配するところです。出された意見は十分吟味しています。	管理者は会議や日々の関わりの中で意見や提案を聴いたり、悩みなどの相談でアドバイスを行い率直になんでも言える場を作っている。年2回の自己評価と必要時個人面談を行っている。介護支援についての変更や業務改善することで休憩時間を有意義に活用できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	介護保険で求めるもの、労働基準法で決められた法の矛盾に苦しみましたが、就業時間の短縮、休憩時間の確保のため、職員全体で話し合い、改善を試みました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外で研修・勉強会の機会は多く、資格取得も推奨していますが、まだ本人任せの部分も多く、今後は専門性を高めるため、個々に合ったスキルアップ研修を事業所主体で取り組みたいと考えています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の事業所と利用者を交えた交流がありますが、職員レベルでの交流に至っていません。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>まずはじっくりとお話をお聴きすることから始めています。その情報は職員と共有しています。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者同様、じっくりと話を聴くことから始めています。直ぐに対応できないことについては、なるべく対応するよう心掛けています。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>基本的にそのような対応ができるように努めていますが、その先に続くご本人の生活を考え一時的なサービスにならないように注意しています。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>完璧ではありませんが、職員主導で物事を決めず、ご利用者の意見等を聴きながら関係性を築いています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の代りにはなれませんので、なるべくご利用者に関わっていただけるような機会を作ろうと努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、地域の方等が面会に来てくださることも多くなっています。	家族や友人・知人の面会で居室や希望の場所でお茶を出してゆっくり寛いでもらっている。年賀状の代筆支援や携帯電話では自由に会話を楽しんでいる。行きつけの理美容院や墓参り・外食・買い物・外泊など、家族の協力で馴染みの人や場所との関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が孤立することなく生活を送っておられます。ご利用者同士が助け合う場面も見受けられます。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そうできるように努めていますが、他事業所に移られた場合は受け身での対応になることが多いと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分らしい生き方ができるように努めています。事故の観点や健康面を考えるあまり、ご利用者に色んな制限を設ける傾向を減らしていけるよう職員とも話をしています。	契約時に思いや希望を聴いたり、日々の中で、特に入浴時や夜間帯に傾聴し記録している。意思疎通が困難な場合は家族と話したり、顔色・表情・言動から把握し本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分の生活スタイルを施設に入居したことで極端に崩すことがないように配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが配慮して、気づいたことを発信して情報共有できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね、そのようにできているのではないかと考えています。単なる計画に終わらないように心がけています。	本人や家族の思いや意向、職員の意見、利用者の日々の言動、主治医の意見を踏まえ担当者会議でそれぞれの現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎、プランを確認しながら定期的に6ヶ月毎に見直している。必要時はその都度見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきを大切にしてその内容を小ミーティングなどを臨機応変におこなうことで共有、サービスの向上につなげられるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望等があれば、できない理由を考えるのではなく、どうしたら実現できるかを前提に対応するようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者全員ではありませんが、それができているケースもあり今後そのような利用者が増えるよう関わりたいと考えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と築いて来られた信頼関係を大切に考えています。事業所とかかりつけ医も良好な関係を築いており、体調急変等においては迅速に協力いただいています。	希望のかかりつけ医を大切にし、家族同伴での受診である。法人母体の医療機関からは月2回の往診があり、協力医療機関とは24時間医療連携体制を取っている。家族に緊急時の対応について説明し、基本的に救急車での対応で適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>現在の運営方針では、看護師と協働することがほとんどなく、医療的専門性が弱いのかも知れませんが、ご利用者の状態変化に対する対応力は事業所として経験を積んだ分あるのではないかと考えています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時の情報提供をおこない、退院後の受入れを前提として病院関係者と話し合いをおこなっています。多くのケースで予定より、早い退院につながっています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約の前段階でターミナルケアをおこなわない方針を説明して納得いただいています。ただし、ケースにおいては対応に応じることも十分考えられ、その場合は、訪問看護等との連携の可能性もあると考えています。</p>	<p>契約前に看取り対応は行わない方針を説明し同意書を得ている。利用者や家族の状況で看取りをかかりつけ医や訪問看護との連携で実施した事例もある。契約時に重度化した場合の判断基準として、経口摂取が不可能な場合や全介助になった場合は、医療機関や特別養護老人ホームの施設などの選択肢を提供している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署主催で行われる救命講習に職員を参加させています。今後はシミュレーション等を実施して、万が一の時に適切に対応できるように備えたいと思います。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災等の災害時の訓練を定期的におこなっています。地域の方の協力をお願いしてありますが、合同の訓練等は実施したことがなく課題と考えています。</p>	<p>年1回法人施設と合同で消防署立会のもと夜間想定避難訓練を実施している。自主訓練として年1回昼夜間想定避難訓練を行っている。水害・地震・土砂災害時のマニュアルがあり、原発事故時の避難場所も確保している。非常用の備蓄は水・米・レトルトカレー・缶詰など、同敷地内の特別養護老人ホームに一括保管している。水は事業所にも保管している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>適当に受け流されたと思われ ないように、ご利用者からの訴えや要望はしっかり聴くことに努めるようにしています。心の安定や満足感につながる大切なことと認識しています。</p>	<p>職員の資質向上のために年2回研修会を行い、必要時はその都度言葉遣いや対応について勉強会を実施している。入浴時や排泄時も言葉遣いに気を付け、しっかり向き合って関わるよう心掛け、プライバシーや尊厳を重視した対応をしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>言いたいことを言える、伝えられる。例え、わがままなことだとしても気持ちを出さることが大切だと思っています。職員もその辺りを理解しています。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>第2の家です、そこではご利用者一人ひとりが主役であるべきです。職員がご利用者の生活を制限することがないように配慮しています。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>その日に着る服など本人に聞きながら準備しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>お箸を配ったり、人の分まで下膳して下さったりちょっとした助け合いの場面がみられます。危なっかしい場面もあり、職員の制限が入ることもあります。基本的に自由にしていただきたいところです。</p>	<p>献立は管理栄養士が作成し、好みの物を取り入れている。職員と一緒に利用者はキャベツの千切りやもやしの根切り、煮物を一緒に作ったり、皿を下げたりテーブル拭きもしている。行事食・誕生日には好物を提供している。外食や出前も楽しんでいる。歯科医の往診による口腔ケアも行っている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事、水分摂取量は体調のサインとして重視しています。一時的か継続しているかで対応を考えています。1日の摂取量確保が難しい場合、ご家族やかかりつけ医等の意見も聞き代替品も検討します。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>ご家族と相談して必要と思われる方には個別に歯科往診を依頼して口腔状態の維持に努めています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>おむつ使用を減らす方向で常に検討しており、トイレでの排泄を目指しています。ただし、排泄の失敗を気にされ不安を抱えるご利用者にはパット等を併用し安心につなげることもしています。</p>	<p>利用者個々の排泄の時間帯を把握し、声かけや誘導を行い、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間帯のポータブルトイレ排泄の利用者もいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>薬を使用しても排便がなかなかコントロールできない方もおられ苦慮している現状があります。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>時間や曜日を決めた対応をせざる得ない現状です。第2の我が家を目指していますので入浴したい時にいつでも入れることが理想ではあります。</p>	<p>週3回午後からの入浴支援である。入浴するときの羞恥心や不安を和らげるように声かけをしたりして雰囲気作りに力を入れている。希望に応じて順番など柔軟に対応している。現在入浴を拒む利用者はいない。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜眠れない方は、お話をゆっくり聴いて差し上げたり、お茶などを出して落ち着かれるように配慮しています。無理に寝かせようとする職員の焦りが逆効果を招きますので。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>概ね、理解できていると考えます。新しい薬が処方された際は、詳しい情報を職員に周知するようにしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や関心ごとが活かせるような関りに努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	職員が対応するには余裕がなくなっており、家族の協力を得て対応をお願いすることが増えています。	日常的に個別対応で買い物やドライブに出かけたり、敷地内の足湯に浸かったり散歩している。年間計画で初詣や花見・梅の花見物・校区運動会・文化祭に出かけている。墓参りや理美容院への外出や外食・外泊等、家族と協力しながら外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が手元に無い不安を訴える利用者があり、家族に相談し幾らか持っていただくことで心の安定につなげたケースがあります。また、お金を使う楽しみのため、買い物支援もおこないました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	その都度対応できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、空間を楽しむ工夫をしています。心地よく過ごせるよう室温、湿度等にも気を配るようにしています。	共用空間は天井が高く明るく清潔感がある。加湿器があり温度・湿度を調整し、心地よく過ごせる環境となっている。キッチンからホール全体を見渡せ、ウッドデッキにも自由に入出りできる。畳間もありソファやテレビもある。壁には利用者の習字や作品集が飾られ居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになる場合は、自室に戻られるケースが増えています。もう少し環境や関りに配慮すべきかもしれません。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全第一ではありますが、なるべくご本人が使いやすいようにしています。また、ADL等の変化により、家具の配置換えなどを行う際は、ご本人やご家族の意見も聞き対応しています。	クローゼットとエアコンが設置され、ベットや寝具類は馴染みの物をそれぞれの利用者が持ち込んでいる。タンス・テーブル・椅子・仏壇・位牌など、利用者や家族の希望で設置し、居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	多少の不便はあつて良いと考えていますが、それが危険であれば改善するようにしています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない